

施策評価管理シート

2019(令和元)年6月作成

施策体系	政策	4	豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち	担当部局(室)名	部局長名
	基本施策	2	生涯学習・生涯スポーツの推進		
	施策	2	生涯スポーツ		
				教育委員会事務局	高嶋 正広

1. 計画策定当初(H28)の状況と課題

Plan

○ スポーツを通じて得られる効果は健康増進、体力づくりのみならず、喜びや感動、達成感や連帯感、また、日常生活でのストレス解消など、精神的にも大きな効用があります。しかし、近年のライフスタイルの変化等によりスポーツをする人、全くしない人の二極化が進んでいます。

○ 子どもの体力・運動能力は、昭和60年頃から低下しており、子どもの親世代と比較しても大きく低下しています。このような状況の中で、「いかにスポーツをする機会を増やせるか、いかに継続させるか」が課題であり、引き続きアプローチ方法を模索していく必要があります。

○ スポーツ活動の拠点となる市内の体育施設は、竣工後35年以上を経過しているものが多く、特に中央公園内の施設については老朽化が顕著になっています。

○ 施設の維持管理については、利用者の安全を最優先とし、合わせて利便性を考慮しながら日々の管理を実施していますが、早期の改修が必要となっています。また、施設改修には、多大の費用を要することから、有効かつ確実な財源確保が必要であります。

2. 施策の基本方針

Plan

○ 市民の誰もが、生涯を通して自主的にライフスタイルに応じたスポーツ・レクリエーション活動に親しみ、健康で、はつらつとした暮らしを営むことができる環境をつくるため、スポーツ関係団体や地域との連携を密にし、生涯スポーツ社会の実現に向けて取り組みます。

○ 市民が気軽にスポーツ・レクリエーション活動に取り組むことができるよう、ニュースポーツの普及やイベントの開催、スポーツ・レクリエーション施設の整備について計画的に取り組めます。

○施策指標(目標)及び達成状況

Plan Do

施策指標(目標)の内容(単位)		現状値(H26)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	達成率
週に1回以上スポーツに親しんでいる市民の割合(%)	目標	-	-	-	43.0	0.0%
	成果	41.5	37.8	43.8	39.2	
市民1人あたりの年間体育施設利用回数(回)	目標	-	-	-	5.0	33.3%
	成果	4.4	4.5	4.8	4.6	
総合型地域スポーツクラブの認定団体数(団体)	目標	-	-	-	5	66.7%
	成果	2	3	4	4	

3. 課題解決への取組内容及び成果(平成28年度～30年度)

Plan Do

・総合型地域スポーツクラブを本期間内(平成28年度～平成30年度)に、新たに2団体(合計4団体)認定し、市民がより身近に、継続したスポーツに親しめる環境整備を進めました。

・体育健康フェスタ、名張ひなち湖紅葉マラソンや名張市スポーツ推進委員協議会主催のおきつもウォーキング等、例年開催しているスポーツ関連行事に加え、平成29年度は、1,710名の市民とともに夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会を開催しました。また、シニアスポーツ大学講座を開講し、スポーツの基礎を学ぶ座学やホッケー・弓道の実技体験を行うなど全10回の講座を行い、27名を地域のスポーツリーダーとして養成しました。さらにホッケーフェスティバルを開催し、国内のトップチームによる親善試合や同チームの選手を指導者としたホッケースクールを約70名の小中学生の受講生を対象に実施し、ホッケー競技の普及啓発を行いました。とりわけ、平成30年度においては、体育健康フェスタに関して、実施内容の一部を見直し、より多くの集客があるとしたて！なばりでスポーツ大賞等の顕彰を行いました。

・三重とこわか国体及び三重とこわか大会(全国障害者スポーツ大会)に向けて、三重県、関係機関や団体等と連携し、開催に向けた調査研究等を進めてきました。また、体育健康フェスタ、とれたて！なばり及び教育フォーラムにおいて、ホッケー・弓道の各体験コーナー及びその他名張市で開催する国体競技に関する啓発コーナーを開設し、市民への普及啓発に取り組みました。また、平成30年度においては、地域住民や関係機関と協議を重ね、百合が丘地区内にホッケー場(日本ホッケー協会公認取得予定)の建設に着手しました。

・体育施設については、スポーツを通じた市民の交流拠点として、また誰もが安心してスポーツに親しめる環境を整えるため、平成28年度には、市民陸上競技場のトラック部分の全天候化(日本陸上競技連盟第4種公認取得)、インフィールド部分の人工芝生化(日本サッカー協会公認取得)の整備を行い、平成29年4月からのリニューアルにより、多くの利用に繋げることが出来ています。また平成29年度においては、市民陸上競技場のスタンド・トイレの整備等、施設のユニバーサルデザインを意識した整備を、また、平成30年度においては、市民陸上競技場の夜間照明の不具合改修と三重県産木材を活用したスタンドベンチの整備を行い、施設利用者のみならず来場者の快適性及び利便性の向上を図りました。

4. 成果を踏まえた課題や現状

Check

・体育健康フェスタについて、スポーツ大賞等の表彰式といった一部事業を、より多くの集客があるとしたて！なばりでの顕彰へ移行した平成30年度の取組に引き続き、スポーツ体験に関しても、とれたて！なばりにおいて実施するなど見直しが必要です。

・体育施設の維持管理を行う中で、名張中央公園一帯が、避難所として指定されており、名張市民のみならず大規模災害時には、伊勢湾岸等からの避難者受入も必要となることから、三重とこわか国体開催も見据え、必要な財源を確保しながら、早急に進めていく必要があります。

・三重とこわか国体の開催に向けて、推進組織を整備するとともに、市内開催競技の市民への普及啓発の更なる強化に取り組む必要があります。

5. 課題解決への取組内容（令和元年度）



- ・総合型地域スポーツクラブや各種団体等との連携を図りながら、市民がスポーツに親しめる環境づくりに取り組みます。また、日常生活にスポーツを取り入れ、継続して活動できる環境づくりに取り組みます。
- ・例年開催しているスポーツ関連行事のうち、体育健康フェスタに関して、福祉・子ども部と連携しながら、実施内容も含めた見直しに取り組みます。また、その他のスポーツ関連行事についても、「名張ケンコー！マイレージポイント」を活用等を通じて、市民がスポーツに触れる機会の充実に取り組みます。
- ・障害のある、ないを問わず、全ての市民がスポーツに親しめる機会を提供するとともに、障害者スポーツ競技を普及し、技術力向上を目指します。
- ・体育施設については、市総合体育館が、避難所として指定されていることから、避難者の快適性向上を図るため、三重とこわか国体開催も見据えながら、トイレ及びシャワー室の整備改修を行います。また、その他の体育施設においても、利用者の安全確保を第一に考え、引き続き適切な維持管理に努めながら、誰もが安心してスポーツに親しめる環境づくりに努めます。
- ・三重とこわか国体の開催に向けて、推進組織を整備するとともに、市内開催競技の市民への普及啓発の更なる強化に取り組みます。

6. 行政評価委員会による総合評価



2020年の東京オリンピック・パラリンピックや2021年のみえとこわか国体・とこわか大会の開催など、スポーツに関する関心が高まっている中、名張ケンコー！マイレージなど健康づくり施策と連携しながら、スポーツに親しめる環境作りに取り組むこと。